

# 英語教育改善プラン推進事業 第1回ワーキング会議



令和4年5月23日（月）  
県総合教育センター第3研修室他  
義務教育課・高校教育課

# Yamanashi Model 充実

～発信力向上を目指して～

キーワード

柱1：児童生徒の**発信力**（話す・書く力）の充実

柱2：**言語活動**の充実

柱3：**パフォーマンス評価**の充実



- **小中高連携・接続**
- 教師の**英語による指導力**向上（質の高い指導体制の充実）
- **全国的な英語教育**の水準の向上、**持続可能**な体制の構築

# Today's Menu

事務局より

- ①令和3年度英語教育実施状況調査結果について
- ②令和4年度英語教育改善プラン推進事業について
- ③第3回研究指定校アンケート結果について

大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

# 山梨県英語教育 改善プラン推進事業

R2

県事業

(R2～) 常永小・小立小・押原中・湖南中  
(R3～) 韮崎小・加納岩小・睦合小・丹波小  
南西中・長坂中  
甲府昭和高校・富士河口湖高校

英語教育改善  
プラン策定  
【Plan】

各自治体の実態・  
課題に応じた具体  
的な取組【Do】

英語教育実施  
状況調査 等  
【Check】

各自治体の取組を  
分析し、次年度へ  
【Action】

R3

英語教育改善  
プラン策定  
【Plan】

各自治体の実態・  
課題に応じた具体  
的な取組【Do】

英語教育実施  
状況調査 等  
【Check】

各自治体の取組を  
分析し、次年度へ  
【Action】

R4

英語教育改善  
プラン策定  
【Plan】

各自治体の実態・  
課題に応じた具体  
的な取組【Do】

英語教育実施  
状況調査 等  
【Check】

各自治体の取組を  
分析し、次年度へ  
【Action】

成果発表会（全国へ）

# Today's Menu

事務局より

- ①令和3年度英語教育実施状況調査結果について
- ②令和4年度英語教育改善プラン推進事業について
- ③第3回研究指定校アンケート結果について

大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

## ○R3年度調査結果から見えてきた課題

- ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。
- イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。
- ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

# 令和3年度英語教育実施状況調査結果

## ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

### ○「CAN-DOリスト形式による学習到達目標の整備状況」について

	(ア) 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を <b>設定</b> している学校		(イ) 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を <b>公表</b> している学校		(ウ) 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の <b>達成状況</b> を <b>把握</b> している学校	
	山梨県	全国平均	山梨県	全国平均	山梨県	全国平均
小学校	98.2%	78.7%	21.7%	29.4%	65.1%	61.1%
中学校	100%	94.7%	37.5%	47.7%	73.8%	67.5%
高等学校	100%	94.0%	88.4%	54.5%	93.0%	57.4%

### ○「パフォーマンステストの実施状況」について

	パフォーマンステストを実施している学校	
	山梨県	全国平均
小学校(S)	97.9%	96.8%
中学校(S/W)	90.8%	90.5%
高等学校(S/W)	49.1%	38.4%

# 令和3年度英語教育実施状況調査結果

イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

○「授業における、児童生徒の英語による言語活動時間の割合」について

	授業の半分以上の時間、言語活動を行っている	
	山梨県	全国平均
小学校	94.0%	92.0%
中学校	68.8%	71.3%
高等学校	50.0%	50.3%

○「授業における、英語担当教師の英語の使用状況」について

	授業の発話の半分以上を英語で行っている	
	山梨県	全国平均
中学校	70.8%	73.4%
高等学校	46.8%	46.0%

※「英語教育に関わる小中連携」について

英語教育に関する小中連携を実施した	
山梨県	全国平均
83.8%	72.5%



# 令和3年度英語教育実施状況調査結果

## ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

### ○「求められる英語力を有する生徒の割合」について

中学校	山梨県	全国平均
外部試験を受験したことがある生徒	31.4%	45.5%
CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒	21.0%	27.2%
CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒	18.3%	19.8%
求められる英語力を有する生徒	39.3%	47.0%

高等学校	山梨県	全国平均
外部試験を受験したことがある生徒	52.6%	53.0%
CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒	36.9%	31.2%
CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒	12.1%	14.9%
求められる英語力を有する生徒	48.9%	46.1%

### ○「求められる英語力を有する教師の割合」について

	CEFR B2レベル以上等を取得している教師	
	山梨県	全国平均
中学校	32.0%	40.8%
高等学校	82.2%	74.9%

# 生徒の英語力向上に向けた分析

- 生徒の英語力向上には、相関分析や回帰分析の結果、中学校、高等学校のいずれにおいても、**「生徒の英語による言語活動時間」「英語教師の英語力」**の2つの要素が影響を与えている。
- 中学校では「パソコン等の活用」、高等学校では「CAN-DOリストの活用」「中高連携」なども影響。
- 「教師の英語使用割合」が高いほど、「生徒の英語による言語活動時間」の割合も高くなる。**
- ⇒「英語力のある教師によるコミュニケーション重視の指導（あるいは文法とコミュニケーションの両者を統合した指導）」と「活発な英語による言語活動」が、生徒の英語力の向上に必要。

## 生徒の英語力と各項目の相関

	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している割合	生徒の英語言語活動時間が50%以上の割合	スピーキングテスト・ライティングテスト両方実施している割合	CEFR B2レベル以上を取得している英語担当教師の割合	発話の半分以上を英語で行っている英語教師の割合	1校あたりのALT数	英語教育に関する小中連携/中高連携を実施した割合	小中連携でカリキュラム作成をした割合	生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りを積極的にしている割合
中学校	0.224	0.383**	0.226	0.265*	0.326**	0.156	0.045	0.322**	0.315**
高等学校	0.406**	0.359*	0.166	0.298*	0.220	0.295*	0.181	0.071	0.298*

\*\*、1%水準で有意（両側） \*、5%水準で有意（両側）。

## 生徒の英語力を目的変数とした回帰分析（抜粋）

### 中学校（都道府県・指定都市別）

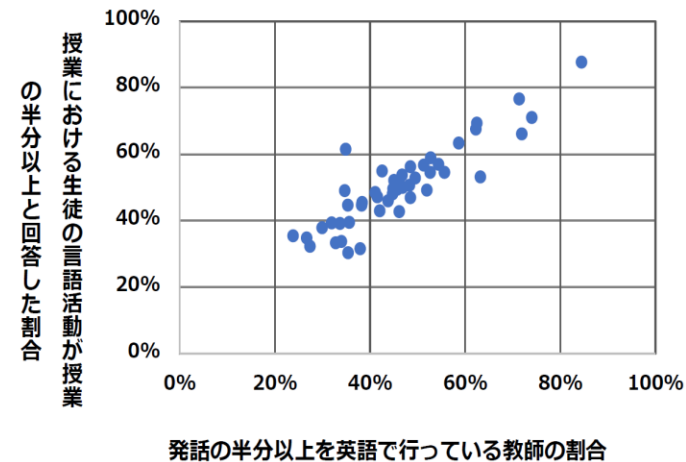
	係数	標準化係数
生徒の英語による言語活動時間が50%以上の割合	0.348***	0.37
CEFR B2レベル以上を取得している英語担当教師の割合	0.246**	0.23
生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りを積極的にしている割合	0.197**	0.23

### 高等学校（都道府県別）

	係数	標準化係数
生徒の英語による言語活動時間が50%以上の割合	0.109*	0.25
「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している割合	0.066*	0.24
CEFR B2レベル以上を取得している英語担当教師の割合	0.200**	0.41
英語教育に関する中高連携を実施した割合	0.075*	0.23

\*\*\*は1%水準で有意、\*\*は5%水準で有意、\*は10%水準で有意

## 「教師の英語使用割合（横）」と「生徒の英語による言語活動時間（縦）」の関係（下記は高等学校の例）



## ○R3年度調査結果から見えてきた課題

ア 「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を評価に活用することに課題がある。

⇒ 柱3:パフォーマンス評価の充実 亀谷みゆき教授

イ 校種があがるにつれて、言語活動時間や教師の英語使用量が減少する。

⇒ 柱2:言語活動の充実 太田洋教授

ウ 求められる英語力を有する生徒・教師の割合が低い。

⇒ 柱1:発信力の充実 田中武夫教授

# Today's Menu

## 事務局より

- ①令和3年度英語教育実施状況調査結果について
- ②令和4年度英語教育改善プラン推進事業について
- ③第3回研究指定校アンケート結果について

## 大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

# 小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業

令和4年度予算額（案） 352百万円  
（前年度予算額） 376百万円



文部科学省

※前年度は上記のほか「コロナ禍における外国語指導助手研修コンテンツ整備事業」（26百万円）を実施

## 背景・課題

「第3期教育振興基本計画」等に掲げられた目標の実現に向け、令和2年度から新しい英語教育が始まった小学校における質の高い指導体制の充実、新学習指導要領で内容の更なる改善が図られた中学校・高等学校における生徒の発信力（話す・書く力）の強化、小・中・高等学校を通じた教師の英語による指導力の向上が喫緊の課題。各地域の課題解決に向けた取組の推進や効果的・先導的な指導法の開発等を進め、全国的な英語教育の水準の向上と持続可能な体制の構築を図る。

## 事業内容

### ◆ 指導體制の強化

免許法認定講習の開設等 専門人材育成・確保事業 39百万円

<委託先> 国立大学法人、学校法人、都道府県・指定都市教育委員会、専門機関等  
<箇所数> 20箇所程度

<小学校に関する取組例>  
小学校教師等が中学校教諭免許状（英語）を取得するための免許法認定講習（H28～）



大学と教育委員会が連携し、小学校英語専科教員として指導ができる人材育成講習

<小・中・高等学校に関する取組例>  
特別免許状等を利用した人材活用（ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な人材等）のための講習

外国語指導助手（ALT）等を対象とした資質・能力向上のための講習等

英語以外の外国語における専門性の高い外国語指導者の養成・確保のための講習や教材開発等



### 関連事業

#### 英語専科教員の加配措置（3,000人）

小学校英語教育の早期化・教科化に伴う専科指導に必要な教師の充実  
小学校高学年の教科担任制推進のための加配措置により更に取組を充実

### ◆ 指導力向上及び条件整備

#### 英語教育改善プラン推進事業

90百万円

都道府県・指定都市教育委員会が、地域の実態や課題に応じて策定している「英語教育改善プラン」の取組の中で、特に英語教育実施状況調査等で明らかになっている課題への効果的な改善策や指導方法の開発や研究・検証等を支援する。（R3～）  
特に、地域の実態や課題を踏まえたパフォーマンス評価等、発信力向上に関する取組について、研究（実証）内容を公表し、全国的な改善の普及を図る。

各種調査等の結果も含めた成果分析を行い、国として効果的な取組等を普及し、英語教育におけるPDCAサイクル、EBPMを促進する。

<委託先> 都道府県・指定都市教育委員会（成果検証は研究機関等）  
<箇所数・単価> 10箇所程度、700万円程度/箇所

英語教育実施状況調査等で明らかになっている課題の例：  
<英語の教育（授業）上の課題> <行政による改善・指導體制上の課題>  
○発信力（話すこと・書くこと）強化 ○地域の実態・課題の把握  
○言語活動の充実 ○小・中・高等学校連携・接続  
○パフォーマンス評価等の効果的な実施等 ○都道府県と市町村の連携



新たな外国語教育に対応した条件整備・情報発信事業 164百万円

小学校外国語活動教材「Let's Try!」の配布。（R1～）  
小・中・高等学校の授業事例等の映像資料を作成。



### ◆ 指導力等強化のための実証研究

#### 先導的なオンライン研修実証研究事業 58百万円

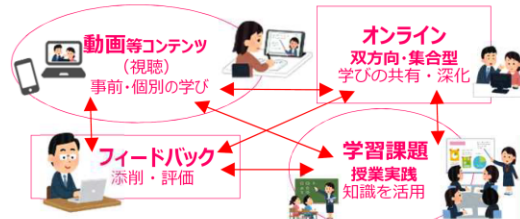
英語による指導力向上のため、専門的な自己研鑽の機会の地域間格差の解消、コロナ禍における状況でも教師が学び続ける機会の確保に向け実証研究を行う。

<委託先> 専門機関等  
<箇所数・単価> 2箇所 29百万円/箇所

◆中・高等学校教員プログラム（R1～）  
国内にいながら、英語による海外の大学等の授業受講を可能とし、英語で専門的な授業を受ける体験を、実際の授業とリンクさせ指導力を向上。

◆小学校教員プログラム（R2～）  
指導に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語力と指導力を向上。

※参加自治体・教師については委託先決定後公募。



#働き方改革 #地域間格差解消 #指導力向上



## 国が求める取組参考例

※令和4年度本事業公募要領より

- ①小学校外国語教育の特質を踏まえ、各学校の実情に応じた指導体制の構築、教科書(デジタル教科書を含む)を使用した効果的かつ持続可能な指導方法や評価方法の開発・実践
- ②小学校との接続を踏まえた中学校や高等学校の指導方法の改善・充実、コミュニケーションを支える言語材料の理解と定着、発信力の強化
- ③育成することを目指す資質・能力を明確にし、学習の目標と評価を見童生徒と共有し、達成状況についてパフォーマンステストを含めた観点別評価により把握する取組
- ④見童生徒1人1台端末等を活用し、海外の見童生徒やALT 等と直接コミュニケーションを行う取組
- ⑤見童生徒の発信力向上のために独自に開発等を行ってきたオンラインシステムやアプリ等を改修し活用することや、ICT アプリ等を効果的に活用し、その効果を検証する取組
- ⑥生徒を対象とした外部検定試験・資格試験を活用した4技能の測定結果を参照することにより、自治体で開発した調査やアセスメントを用いて測定している測定結果の精度をより高めていく取組

# 山梨県英語教育改善プラン推進事業 (令和3年度～令和4年度)

## 【背景】

- 「第3期教育振興基本計画(2018～2022)」及び新学習指導要領。
- グローバル化の進展に伴い、国内外の様々な場面において、外国語で躊躇なく意見を述べ、他者と交流し、共生する力の育成が求められる。
- 英語教育の水準の向上(小学校における質の高い指導体制の充実、中学校卒業時の英語力CEFR A1 50%以上、高等学校卒業時の英語力CEFR A2 50%以上、小・中・高等学校を通じた教師の英語による指導力向上)

## 【課題】

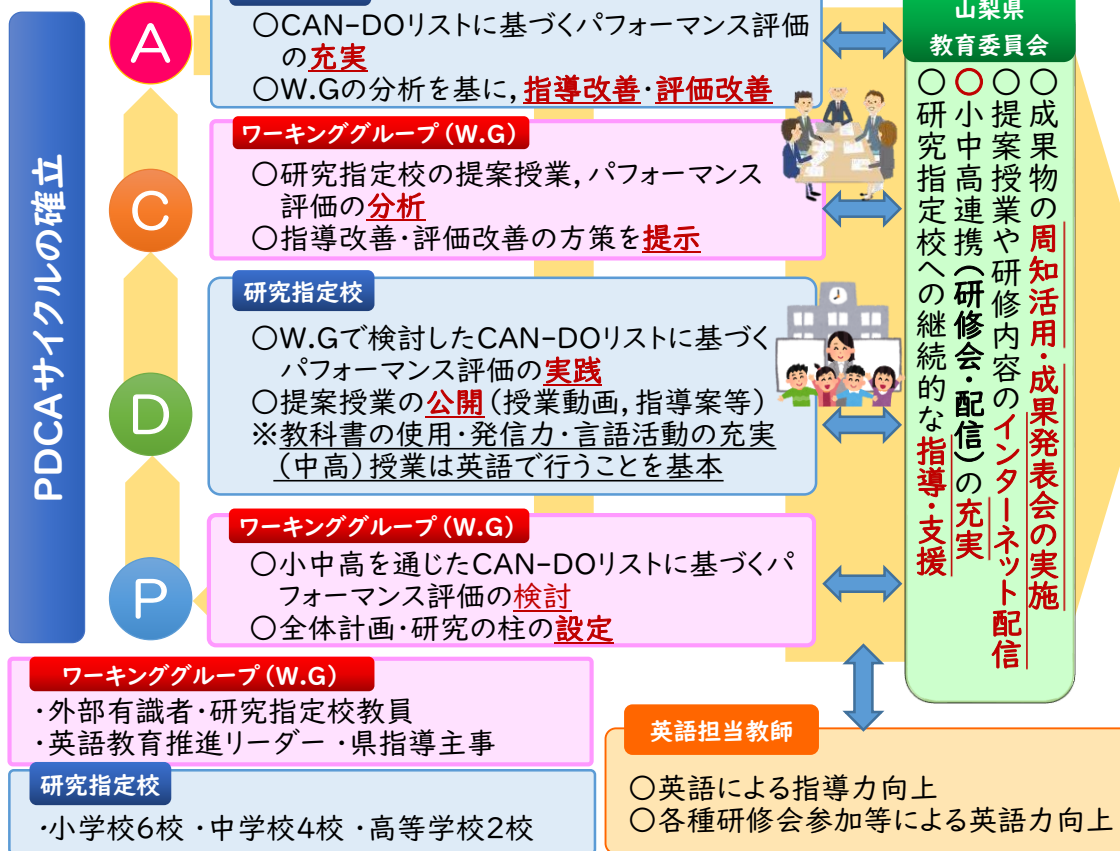
- 「話すこと」において、英語による指導や信頼性・妥当性ある評価に課題。
- 国の各調査結果から、中学生・高校生の「話すこと」「書くこと」に課題。
- 中学校卒業時の生徒の英語力 山梨県39.3%(R3)  
高等学校卒業時の生徒の英語力 山梨県48.9%(R3)
- 教師の英語力 山梨県中学校32.0%(R3) 高等学校82.2%(R3)
- 「CAN-DOリスト」※1の学習指導・評価への活用が課題。

※1 CAN-DOリスト：外国語における4技能5領域ごとに「～することができる」という学習到達目標を記述したもの。

## 【事業目的】

小・中・高等学校を通じて、グローバル社会に生きる児童生徒に求められる発信力を向上させるために、実際の目的・場面・状況に応じて英語を活用する課題(パフォーマンス課題)を設定し、言語活動を通して、指導・評価するモデルを充実させる。

## 【事業内容】



## 小・中・高等学校

- 校内研究会等で成果物の活用
- 言語活動を中心に据えた授業実践
- 小中高連携の充実



## 県下・全国に波及する効果

- 児童生徒が、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う発信力の強化。
- 小・中・高等学校を通じたCAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題を年間指導計画に位置付け、指導・評価するモデルの充実。
- 教科書(デジタル教科書を含む)を使用した効果的かつ持続可能な指導方法や評価方法の開発。
- 小中高連携の充実(指導・評価、内容・方法の共有)
- 授業における、言語活動時間と英語使用量の増加。
- 英語担当教師の指導力・英語力の向上。

児童生徒の  
英語発信力向上



# Yamanashi Model 充実

～発信力向上を目指して～

キーワード

柱1：児童生徒の**発信力**（話す・書く力）の充実

柱2：**言語活動**の充実

柱3：**パフォーマンス評価**の充実



- **小中高連携・接続**
- 教師の**英語による指導力**向上（質の高い指導体制の充実）
- **全国的な英語教育**の水準の向上、**持続可能**な体制の構築



- ①英語使用が豊富な言語活動を中心に据えた授業づくり
- ②パフォーマンス評価
- ③教科書（デジタル教科書）の活用
- ④CAN-DOリストの活用
- ⑤小中高連携
- ⑥海外の児童生徒やALT 等と直接コミュニケーションを行う取組
- ⑦自治体連携による英語教育改善のためのアライアンス  
（山梨県・静岡県・三重県・鹿児島県）
- ⑧外部検定試験（実用英語技能検定）による成果指標（中3）
- ⑨成果発表会（全国へ：県外オンライン参加）
- ⑩山梨県英語教育改善プラン推進事業YouTubeチャンネル開設  
Yamanashi English Channel (YEC)

## 研究指定校の取組

## R4年度各校の研究内容 ※R3年度の成果と課題を踏まえる

- 常永小: 言語活動を軸とした授業づくり、指導改善・学習改善につながる評価方法の模索、中間指導・評価、振り返りカード・自己評価、思考・判断・表現の適切な見取り
- 小立小: すべての児童が「わかる・できる」を実感できる授業の創造-指導と評価の一体化を図るための学習評価を通して-  
中間指導、振り返り活動、CAN-DOリスト・評価規準(基準)の共有
- 葦崎小: 指導と評価の一体化、CAN-DOリスト、思考力・判断力・表現力を高める指導と評価、一人一台端末、中間指導
- 加納岩小: CAN-DOリストの整理、ルーブリックの再検討、信頼性・妥当性ある評価、児童用デジタル教科書の活用方法、学びの個別化と協働の往還
- 睦合小: CAN-DO リスト・CHALLENGE リストの活用と改善、パフォーマンス課題、効果的な指導と評価、教材の作成・リスト化
- 丹波小: 丹波小CAN-DO リストの作成と活用(教師にとっても生徒にとっても分かりやすい)、少人数学級、ICT 機器を効果的に活用した言語活動、ネイティブスピーカーとのやり取り

国が求める取組

研究指定校の取組

県の取組

## 研究指定校の取組

## R4年度各校の研究内容 ※R3年度の成果と課題を踏まえる

- 押原中 : 技能統合型の言語活動、汎用性と持続可能な教科書の活用、backward design、パフォーマンス評価、Small Talk、小中高連携
- 湖南中 : スマールトーク、フレーズの活用、単元ゴールへのスマールステップ、中間指導、教科書の活用、発問の工夫、複数教員による評価規準(基準)の共有、小学校・高等学校との交流(授業観察)による連携
- 南西中 : 持続可能なパフォーマンス評価と指導、自己調整、Chromebook、信頼性・妥当性ある評価、領域統合型の言語活動
- 長坂中 : 論理的に思考し、表現する力、「話すこと(やり取り)」→「書くこと」、単元計画、単元ゴールと授業ごとのねらいの関連づけ、中間指導
- 甲府昭和高校:  
甲府昭和高校版CAN-DOリストの修正と年間指導計画、単元計画の作成  
領域統合型の授業を通じた言語活動を中心に据えた授業づくりの実施  
観点別評価の実施、小学校・中学校との交流(授業観察)による連携
- 富士河口湖高校:  
CAN-DOリスト再検討、パフォーマンス課題、目的・場面・状況の適切な設定、  
評価方法の検討(ルーブリックの見直し)、教科会議・指定校同士(小中高)  
の研究会等で情報交換

国が求める取組

研究指定校の取組

県の取組

## 小・中・高等学校

- 校内研究会等で成果物の活用
- 言語活動を中心に据えた授業実践
- 小中高連携の充実



## 県下・全国に波及する効果

- 小・中・高等学校を通じた**CAN-DO**リストに基づくパフォーマンス課題等を**年間指導計画**に位置付け、指導・評価するモデルの充実
- 教科書**（デジタル教科書を含む）を使用した効果的かつ持続可能な指導方法や評価方法の開発
- 小中高連携の充実**（指導・評価、内容・方法の共有）
- 授業における、**言語活動時間**と**英語使用量**の増加
- 英語担当教師**の指導力・英語力の向上



児童生徒の  
英語発信力向上



# 成果指標（検証）

①「英語教育実施状況調査」

②「研究指定校アンケート」

③「研究指定校振り返りシート」

④「パフォーマンス動画 経年比較」

⑤外部検定試験（実用英語技能検定）」（中）

⑥「授業動画視聴アンケート（アーカイブ動画・オンライン配信）」

⑦「ワーキンググループ有識者による分析検証」

⑧「令和5年度全国学力・学習状況調査」



# Today's Menu

## 事務局より

- ①令和3年度英語教育実施状況調査結果について
- ②令和4年度英語教育改善プラン推進事業について
- ③第3回研究指定校アンケート結果について

## 大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会

# 英語教育改善プラン推進事業 研究指定校アンケート(第3回)

小学校(教員用・児童用) 中学校(教員用・生徒用) 高等学校(教員用・生徒用)

## ○目的

本事業を通して、英語担当教師が授業改善(指導改善・評価改善)を行うとともに、児童生徒が学習改善をしながら、英語による発信力を向上させていく変容を見取る。また、本事業の成果と課題を明確化するツールとする。

## ○対象

教員:外国語(英語)担当教師全員(外国語活動・外国語科担当教師)  
児童生徒:外国語(英語)を学習している児童・生徒全員が基本

## ○時期

第1回:4月下旬~5月上旬 ※提出期限:5月19日(木)  
第2回:1月中旬 ※提出期限:1月20日(金)

## ○方法

- ・Google フォーム or Microsoft Forms
- ・Excel

## ○その他

- ・調査項目は変えずに実施し、提出してください。
- ・校内研等使う場合は、調査項目を加えても構いません。

# Today's Menu

事務局より

- ①令和3年度英語教育実施状況調査結果について
- ②令和4年度英語教育改善プラン推進事業について
- ③第3回研究指定校アンケート結果について


## 大学教授による講義（指導助言）

※終了後、校種ごと分科会



# 大学教授による講義（指導助言）

## Yamanashi Model 充実 ～発信力向上を目指して～

柱1：児童生徒の**発信力**（話す・書く力）の充実  
（田中武夫教授）  


柱2：**言語活動**の充実（太田洋教授）

R3「話すこと（やり取り）」を通じた授業・教科書活用・領域統合型等

柱3：**パフォーマンス評価**の充実（亀谷みゆき教授）

CAN-DOリストの活用・指導と評価の一体化等



- **小中高連携・接続**
- 教師の**英語による指導力**向上（質の高い指導体制の充実）
- **全国的な英語教育**の水準の向上、**持続可能**な体制の構築

Thank you for your attention.